

島根海区漁業調整委員会事務局だより

第15期第14回島根海区漁業調整委員会が、令和2年3月23日（月）に松江市内で開催され、以下の議題について諮問等が行われました。

【議題】

- (1) 島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画について（諮問）
 - ① スルメイカの令和2年漁期のTACの決定
 - ② クロマグロの第6管理期間のTACの決定
- (2) 水産政策の改革に伴う漁業調整規則の改正について（報告）
- (3) 水産政策の改革について（報告）
- (4) 第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しについて（報告）
- (5) 2019年の島根県の漁業生産の状況について（報告）
- (6) その他

委員会での検討結果は以下のとおりです。

(1) 島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画について（諮問）

「海洋生物資源の保存及び管理に関する法律」に基づき、本県ではマイワシ、マサバ及びゴマサバ、マアジ、スルメイカ、ズワイガニについて、毎年、国からの漁獲可能量の配分を受け、県計画を定めています。

また、クロマグロについては、第4管理期間（平成30年7月～令和元年6月）から、国からの漁獲可能量の配分を受け、県計画を定めています。

このたび、令和2年漁期（令和2年4月～令和3年3月）のスルメイカに係わる国の漁獲可能数量及びクロマグロの第6管理期間（令和2年4月～令和3年3月）における小型魚（30kg未満）、大型魚（30kg以上）の島根県への配分量が国から示され、県の管理計画について、知事からの諮問があり、審議の結果、原案どおりで異議の無い旨の答申をすることになりました。

県の管理計画の変更の概要

	令和2年4月～令和3年3月の知事管理量
するめいか	若干

クロマグロの第6管理期間（令和2年4月～令和3年3月）における漁獲可能量（島根県知事管理分）の概要

	第6管理期間の知事管理量	
小型魚（30kg未満）	78.5トン〔うち2.5トンを留保枠とする〕	
大型魚（30kg以上）	23.3トン〔うち1.2トンを留保枠とする〕	
採捕の種類	小型魚（30kg未満）	大型魚（30kg以上）
定置漁業	20.7トン	22.1トン
くろまぐろ承認漁業	54.5トン	
その他の漁業	0.8トン	

(2) 水産政策の改革に伴う漁業調整規則の改正について（報告）

漁業法改正に合わせ「都道府県漁業調整規則例」も改正される予定であり、これを受け、島根県漁業調整規則及び島根県内水面漁業調整規則を改正する必要があるため、改正方針の概略について事務局より説明をしました。

主な改正点は次のとおりです。

【漁業法の改正を踏まえたもの】

- ① 知事許可漁業の許可の有効期間は5年を基本とする。
- ② 知事許可漁業の種類を「継続許可」と「新規許可」の2種に分類する。
- ③ 知事許可漁業に「あわび漁業」と「なまこ漁業」を新設する。

【都道府県漁業調整規則例の改正を踏まえたもの】

- ① 海面規則と内水面規則を一元化する。
- ② 電気設備の制限並びに漁船の総トン数及び馬力数の制限は、県規則から削除し、許可の制限措置又は条件等で規定する。

(3) 水産政策の改革について（報告）

海区漁業調整委員会の委員の選出方法については、漁業法改正により、漁業者選挙制度（公選制）が廃止となり、知事による任命制となります。

また、改正漁業法附則の規定により、現在の委員の任期（令和2年8月31日）が令和3年3月31日まで（7ヶ月間）延長されました。

委員構成は、現行定数15人を10人～20人の範囲において県条例で増減させることができるようになりましたが、現行の委員構成を大きく変える必要性や変更要望もないことから、現行体制を基本として検討を進めて行く考えです。

今後の予定として、本年7～8月頃から概ね1ヶ月間、委員の推薦・募集を行い、推薦・募集の結果を尊重して選任議案を作成し、県議会の同意を得たのち、令和3年4月1日から新たな委員の4年間の任期が始まります。

(4) 第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しについて（報告）

第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しについて、アンケート調査の結果を踏まえて、県として見直しの方向性が示されました。

- ① 沿岸漁業の所得向上が期待できる魚種に転換。新たな取組対象種として、定着性が強く、市場価値の高いマナマコ、キジハタを選定
- ② マダイ、ヒラメの放流サイズの小型化による種苗放流の効率化
- ③ 沿岸漁業の振興に資する新たな技術開発について、計画中に明記

(5) 2019年の島根県の漁業生産の状況について（報告）

水産技術センターより令和元年の島根県の漁業生産の状況について報告がありました。

総漁獲量は8万トン、総生産額は182億円で、前年に比べ量は3万3千トンの

減少、生産額は16億円の減少という結果となりました。漁獲量が減少した要因としては、まき網で漁獲されるマアジ、サバ類、マイワシの不漁によるものです。

漁業種類別に見ると、中型まき網漁業では、1船団あたりの漁獲量は平年を下回り、生産額は平年並み。沖合底びき網漁業では、1船団あたりの漁獲量・生産額はともに平年並み。小型底びき網漁業では、1隻あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み。定置網漁業も漁獲量・生産額ともに平年並み。釣り・延縄も漁獲量・生産額ともに平年並み。イカ釣り漁業では、ケンサキイカは平年を下回り、スルメイカは平年を上回る状況でした。

お問い合わせ：島根海区漁業調整委員会事務局 TEL 0852-22-5950